

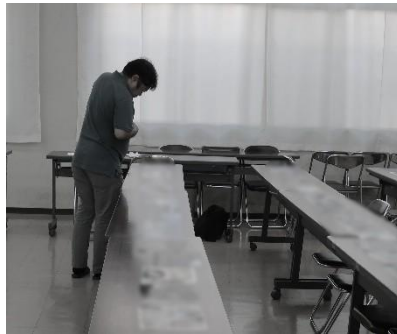
県高校写真展審査会を実施

第32回長野県高等学校写真展の第1期作品審査会が、9月6日に上田千曲高等学校で行われました。審査員は東京工芸大学芸術学部の上田耕一郎先生と信濃毎日新聞社の平林幹雄先生にお願いしました。第1期は24校409作品の応募があり、展示決定作品選出後、入賞ノミネート作品の決定を行いました。

審査の結果、展示決定作品として116点が選出され、その中から33点が入賞ノミネート作品に選ばれました（詳細は写真専門部のウェブページを参照）。



1枚1枚作品を見て審査をする先生方



展示決定写真を並べ、ノミネート作品を選出



○審査員の先生方の講評

〈上田先生〉

応募作品を見ながら、「撮影者が何を感じて、それを写真にどのように写しているのか」ということに着目して審査をしました。他県の高校生の作品の審査も行ったことがありますが、長野県は風景や動物の写真が多いと感じました。風景や動物を撮影するにしても、見たままのものを撮って終わりにするのではなく、もう少し粘っていい場面を探してみてもいいのでは、と思います。

応募作品を選ぶ際には、主役となるものを中心にしながら、余計なものが写りこんでいないか（→ 必要なければトリミングする）、逆に（寄りすぎるなどして）必要なものが欠落していないか（→ 周囲を入れてみたり同じ被写体の別カットも見直してみる）など、細部までよく見て選んでもらいたいです。カメラのモニターで見るだけでなく、できれば版で一度プリントし、印刷した写真と向き合って、時間をかけて慎重に選定するようにしてください。

〈平林先生〉

数多くの応募作品の中から展示決定作品またノミネート作品を選ぶのは大変でした。写真を見た時に何か「いいな」と思わせるものがある作品を選びました。また、タイトルのつけ方にも工夫がほしいです。

風景や動物の写真が多かったですが、例えば動物を撮る場合、ただ見たままを写すのではなく、被写体の表情を活かすような写真や動物以外のものをワンポイントに入れて撮ったりしてみても、と思います。引きで撮った写真の中には「もっと迫ってみてもよかったのでは……」と思うものもありました。

応募作品の中には、プリントの仕上がりが今一つであったものがいくつかありました。学校によってプリンターの性能の差はあるかと思いますが、同じ被写体を撮っても仕上がりが悪いとそれだけで印象は変わってしまいます。印刷してみてこの感じでよいのか、またトリミングが必要か、など仕上がりに目も向けて作品の制作に取り組んでもらいたいです。

高写展第2期の応募は10月1日（水）締切（長野俊英高校必着）です。審査員の先生方の講評も参考にしながら作品を選び、応募してください。2期は春のチャレンジコンテスト・地区展の入選作品も加えて審査を行います。